

女性と貧困撲滅に関するASEAN+3人間の安全保障シンポジウム（概要）

平成 19 年 7 月 11 日

外務省アジア大洋州局地域政策課

1. シンポジウムの概要

- (1) 7月5-9日、当省、NPO法人・女性人権機構の共催により「女性と貧困撲滅に関するASEAN+3人間の安全保障シンポジウム」が開催された（本件シンポジウムは5-6日の専門家会合（非公開）、7日の公開シンポジウム、8-9日の地方スタディ・ツアーの3部構成。なお、7日の公開シンポジウムは、上記に加え、読売新聞社、国連大学の共催）。
- (2) 今次シンポジウムは、ASEAN+3 協力事業の一環として、本年1月の第10回ASEAN+3 首脳会議で安倍総理から開催を表明したものであり、本件開催経費は日ASEAN 統合基金（JAIF）による。
- (3) 5-6日の専門家会合では、当該問題の解決に取り組んでいるASEAN+3 各国の政府、NGO（非政府組織）及び国際機関代表29名が参加し、本件問題の現状についての報告を行うと共に活発な議論を行い、提言（英文）をまとめた。また、7日の公開シンポジウムでは、関口昌一外務大臣政務官が冒頭開会の挨拶が行なったほか、2006年度ノーベル平和賞受賞者であるモハメド・ユヌス・グラミン・バンク総裁が基調講演を行い、続いてユヌス氏も含む国内外のパネリストの参加を得て議論が行われた。なお、同公開シンポジウムには約500人の聴衆が参加した。

2. 本件シンポジウムの成果

- (1) ASEAN+3 の協力分野に昨年より新たに加わった「女性」と「貧困」の問題は相互に密接に関係しており、ジェンダークラス格差は、貧困削減とMDGs 達成の大きな障害との認識が共有されたほか、専門家会合の成果として、「ASEAN+3 諸国における貧困の女性化を削減するための提言」をまとめるなど、本件会合の実施は域内の当該問題への取組を強化する端緒となった。
- (2) 「女性」と「貧困」の問題は、各国・地域の経済構造、政治、文化、社会、歴史、地理等の諸要因が絡み合った複雑な問題であるが、参加者の詳細な現状報告は、その全体像の把握に役立った。
- (3) 我が国は、「貧困削減」をODA 大綱の重点課題として掲げているほか、開発における男女の平等な参加と公平な受益の確保、女性の地位向上に取り組むため、

「ODA 大綱」、「ODA 中期政策」の双方において、ジェンダーの視点を考慮することを明記するとともに、「ジェンダーと開発（GAD:Gender and Development）イニシアティブ」を打ち出し、開発途上国の貧困削減とともにジェンダーの平等及び女性の地位向上に向けた取組への支援に努めている。本件シンポジウムの開催は、こうした我が国の取組への参加者の理解を深め、内外に広くアピールする結果となった。特に、公開シンポジウムにおいて、比の NGO 代表が貧困撲滅、女性格差に関する体験を実感を込めて語る中で、日本の ODA の有益性にも触れたことは、聴衆に強くアピールしていた。

- (4) 「女性」と「貧困」の問題は複雑で多岐にわたるため、その解消のためには、社会、経済、政治、文化といった全ての分野において、政府、国際機関、市民社会などを含む国際社会が一丸となって取り組むことが重要。本件シンポジウムは、日本政府、NPO 法人である女性人権機構、国連大学及び読売新聞社の共催により開催され、参加者も政府関係者のみならず、NGO/INGO、民間企業、学術関係者にまで及んでおり、本件取組を強化する上で不可欠な各種アクターのネットワーク構築に役立った。

(了)